



北陸地方整備局  
松本砂防事務所  
記者発表

発表日時  
平成24年10月10日  
14:00 解禁

## 深層崩壊に関する溪流（小流域）レベルの調査について

～深層崩壊溪流（小流域）レベル評価マップ～

国土交通省本省において、9月10日に「深層崩壊に関する溪流（小流域）レベル調査について」を記者発表しています。

([http://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo03\\_hh\\_000552.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo03_hh_000552.html))

松本砂防事務所管内における調査実施箇所について（資料1）、調査結果（資料2）が取りまとめられましたので公表します。

調査を担当した姫川流域とその周辺域、信濃川上流域の一部の調査結果関係資料は、北陸地方整備局ホームページを御覧ください。

[http://www.hrr.mlit.go.jp/bosai/shinso\\_houkai/top.html](http://www.hrr.mlit.go.jp/bosai/shinso_houkai/top.html)

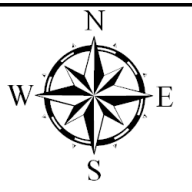
### 添付資料

- ・資料1 北陸地方整備局 深層崩壊溪流（小流域）レベル評価区域図
- ・資料2 深層崩壊溪流（小流域）レベル評価マップ（上記 URL 参照）
- ・参考資料1 調査、評価の方法
- ・参考資料2 北陸地方整備局における深層崩壊に関する主な取り組み

—配布先—  
松本市政記者クラブ  
その他 専門紙

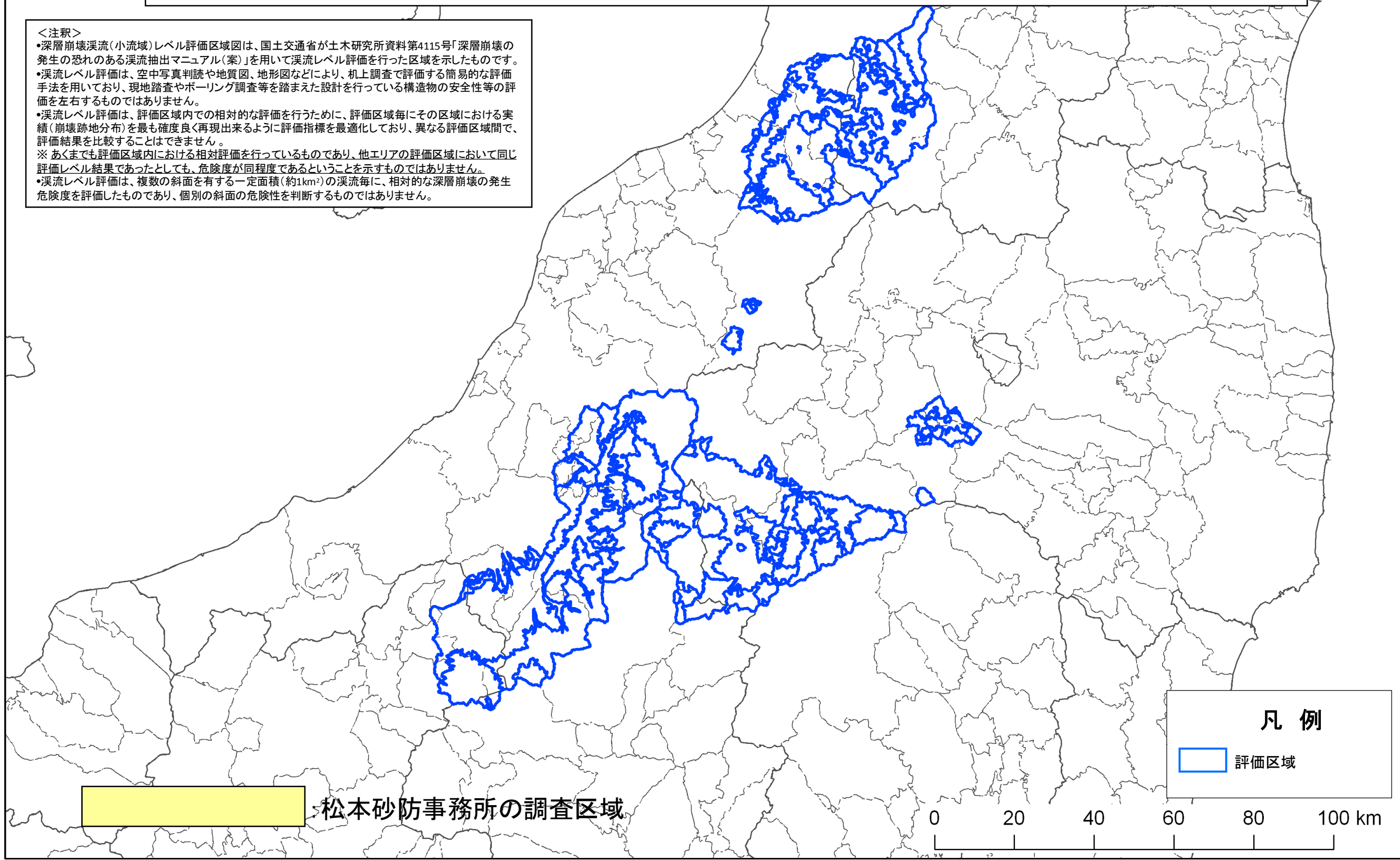
お問い合わせ先  
北陸地方整備局 松本砂防事務所  
電話（0263）33-1115（代表）  
（技）副所長 地中 浩（内線204）  
調査課長 石川 一栄（内線351）

# 北陸地方整備局管内 深層崩壊溪流(小流域)レベル評価区域図(1/2)



<注釈>

- 深層崩壊溪流(小流域)レベル評価区域図は、国土交通省が土木研究所資料第4115号「深層崩壊の発生のある溪流抽出マニュアル(案)」を用いて溪流レベル評価を行った区域を示したものです。
- 溪流レベル評価は、空中写真判読や地質図、地形図などにより、机上調査で評価する簡易的な評価手法を用いており、現地踏査やボーリング調査等を踏まえた設計を行っている構造物の安全性等の評価を左右するものではありません。
- 溪流レベル評価は、評価区域内での相対的な評価を行うために、評価区域毎にその区域における実績(崩壊跡地分布)を最も確度良く再現出来るように評価指標を最適化しており、異なる評価区域間で、評価結果を比較することはできません。
- ※ あくまでも評価区域内における相対評価を行っているものであり、他エリアの評価区域において同じ評価レベル結果であったとしても、危険度が同程度であるということを示すものではありません。
- 溪流レベル評価は、複数の斜面を有する一定面積(約1km<sup>2</sup>)の溪流毎に、相対的な深層崩壊の発生危険度を評価したものであり、個別の斜面の危険性を判断するものではありません。



**凡例**

評価区域

松本砂防事務所の調査区域

0 20 40 60 80 100 km



# 北陸地方整備局管内 深層崩壊溪流(小流域)レベル評価区域図(2/2)

## <注釈>

- 深層崩壊溪流(小流域)レベル評価区域図は、国土交通省が土木研究所資料第4115号「深層崩壊の発生の恐れのある溪流抽出マニュアル(案)」を用いて溪流レベル評価を行った区域を示したものです。
- 溪流レベル評価は、空中写真判読や地質図、地形図などにより、机上調査で評価する簡易的な評価手法を用いており、現地踏査やボーリング調査等を踏まえた設計を行っている構造物の安全性等の評価を左右するものではありません。
- 溪流レベル評価は、評価区域内での相対的な評価を行うために、評価区域毎にその区域における実績(崩壊跡地分布)を最も精度良く再現出来るように評価指標を最適化しており、異なる評価区域間で、評価結果を比較することはできません。
- ※あくまでも評価区域内における相対評価を行っているものであり、他エリアの評価区域において同じ評価レベル結果であったとしても、危険度が同程度であるということを示すものではありません。
- 溪流レベル評価は、複数の斜面を有する一定面積(約1km<sup>2</sup>)の溪流毎に、相対的な深層崩壊の発生危険度を評価したものであり、個別の斜面の危険性を判断するものではありません。

84-21 糸魚川  
(中生代堆積岩類(非付加体))

84-20 糸魚川  
(中生代堆積岩類(付加体))

84-22 姫川  
(中生代堆積岩類(非付加体))

84-23 姫川  
(中生代火山岩類(付加体))

84-24 姫川  
(第四紀火山岩類)

84-25 姫川・信濃川  
(新第三紀堆積岩類)

84-26 姫川・信濃川  
(古新第三紀火山岩類)

84-33 信濃川  
(中生代深成岩・変成岩類(非付加体))

84-27 信濃川  
(新第三紀堆積岩類)

84-35 信濃川  
(新第三紀火山岩類)

84-36 信濃川  
(第四紀火山岩類)

84-31 信濃川  
(新第三紀深成岩類(貫入岩類))

84-28 信濃川  
(第四紀火山岩類)

84-29 信濃川  
(中生代堆積岩類(付加体))

84-30 信濃川  
(新第三紀深成岩・変成岩類)

84-32 信濃川  
(中生代堆積岩類(付加体))

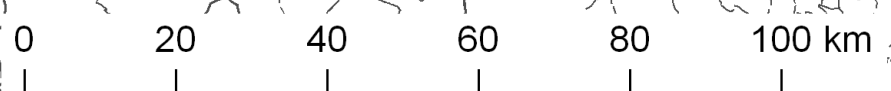
84-37 信濃川  
(中生代深成岩・変成岩類(非付加体))

84-34 信濃川  
(中生代堆積岩類(付加体))

### 凡例

評価区域

松本砂防事務所の調査区域

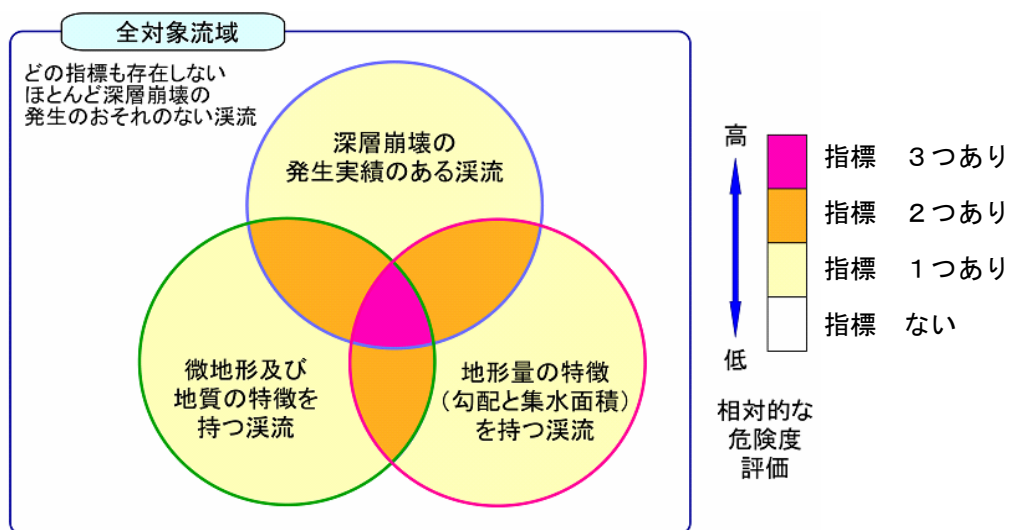


○ 調査、評価の方法

今回の溪流（小流域レベル）の調査結果は、以下に示す方法により一定の地域内における、深層崩壊が発生する「相対的な危険度」を示したものであり、評価区域内での適合性を最適化するため、評価区域毎に評価要素の指標を分析、設定しています。このため、評価結果は、あくまで、評価区域内での相対評価であり、評価区域が異なる場所と評価結果を比較する事ができないことに注意してください。

資料 1 で示す範囲について、「深層崩壊の発生の恐れのある溪流抽出マニュアル（案）」（独立行政法人土木研究所）に基づき調査を行っており、概略の手順は以下のとおりです。

- ① 空中写真判読等により、比較的簡便に調査が可能な以下の A～C の 3 要素を調査し、約 1km<sup>2</sup> の溪流毎に整理
  - A 深層崩壊の発生実績
  - B 地質構造及び微地形要素
  - C 地形量（勾配及び集水面積）
- ② 地質や気候条件が概ね等しいと考えられる地域（以下、評価区域）毎に、B 及び C の指標を分析・設定
- ③ 評価区域内の相対的な危険度を、3 要素の有無により 4 段階（3 つあり、2 つあり、1 つあり、なし）で評価し、地図に色分けして表示（資料 2）





深層崩壊に伴う大規模な土砂災害に対する危機管理体制として、関係機関との連携強化を図っています

- ・ 関係機関との連絡体制網を整備しています
- ・ 深層崩壊に伴う大規模土砂災害を想定した危機管理訓練を関係自治体と共同で継続実施しています
- ・ 北アルプス大規模土砂災害対策連携会議（第1回）をH24.9.10に開催し、今後学識経験者と行政との連携強化を図ります
- ・ 情報通信ネットワーク（北アルプスモデル）推進連絡調整会議（第1回）をH24.3.15に開催し、今後北アルプスエリアの山小屋関係者等と行政との連携強化を図ります



H24.4~6実施 関係自治体との緊急調査に関する情報連絡会



自治体との合同訓練(H24.1.20実施 於:白鳥村)



H24.9.10 北アルプス大規模土砂災害対策連携会議 (於:富山市)



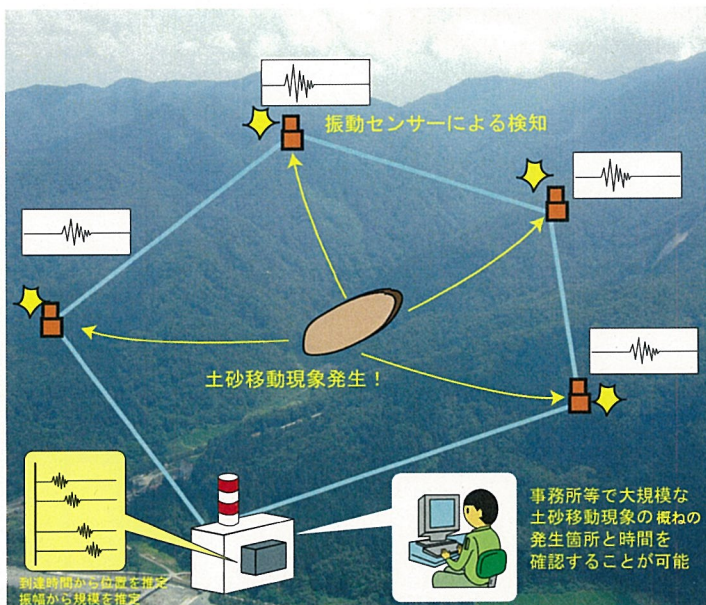
H24.3.15 情報通信ネットワーク(北アルプスモデル)推進連絡調整会議(於:松本市)

大規模な土砂移動発生時の緊急調査を速やかに実施できる体制を整えます

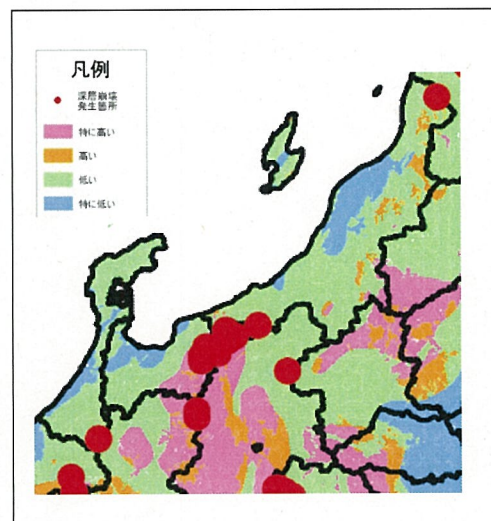
- ・ 深層崩壊推定頻度マップで推定頻度が「特に高い」地域を中心に大規模土砂移動検知システムの整備を進めます

### 大規模土砂移動検知システムの整備

-大規模土砂移動検知システムのイメージ-



北陸地方深層崩壊推定頻度マップ



面的に配置した振動センサーで観測された土砂移動現象の振動から、大規模土砂移動が発生した概ねの位置と時間を特定します